

令和7年度第1回学校運営協議会 会議録

期日：令和7年5月20日（火）14:00～15:30

場所：会議室1

出席者：委員7名、学校職員7名 計14名

1 開会（副校長）

2 学校運営協議会委員委嘱

校長：1年間よろしくお願ひします

3 出席者自己紹介

4 校長あいさつ

- ・お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本校の教育活動に対しまして、ご理解を頂きありがとうございます。委員をお引き受け頂いたことに心から感謝申し上げます。
- ・本校の強みは、地域に支えられていることである。
- ・今年度も202名を迎えることができた。生徒が学校の内外で育っていくような環境づくりで知恵をお借りしながら地域と共に学校づくりを進めていきたい。

5 学校運営協議会運営規定の説明（副校長）

- ・新規の委員5名、継続する委員2名。
- ・運営規定は、岩手県教育委員会の規則第2号岩手県立学校における学校運営協議会設置等に関する規則に基づいて作成したものである。

6 会長、副会長の選出

7 学校運営方針及び概況説明（議長：会長）

（1）令和7年度学校経営計画について（校長）

- ・様式は県から指定されているものである。
 - ・令和6年度と大きく変わったものはない。
 - ・「魅力化協働パートナー」の欄には、学校に関わってご指導を頂いている団体・個人を入れさせて頂いている。「総合探究」、「産業社会と人間」に関わっているところ等である。
 - ・今年度の重点目標については、達成指標のパーセンテージを昨年から5%上げて掲載した。
- 令和5年度までは保護者アンケート結果を使っていたが、学校の主役は生徒であるという事から、生徒の声をアンケートにとって昨年度から修正した。
- ・昨年度はアンケートの結果からは指標すべてクリアした。
 - ・昨年を超える形で指標を設定した。細かくは取組方針に載せている。
 - ・「学びの充実」では、Wi-Fi環境で通信状況が思わしくなく県に改善を要望している。
 - ・「確かなキャリアの構築」では、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」については、担当が頑張っており、外部の皆様の力添えもあり、生徒も頑張っている。昨年12月に行った発表会は立派であった。細かいところも見ながら評価していかなければならない。リーダーの生徒たちは育っているが、一般の生徒の評価も必要と考える。
 - ・「学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめの防止」では、本人がいじめと思えば、いじめと定義する。どこの学校でも起こり得え、それが起こらないように取り組んでいる。
 - ・「開かれた学校への取組」では、昨年度noteで広報活動を担当が頑張った。今年度も生徒の様子が分かるように取り組んでいきたい。校内のシステムをどのように上げていくか、誰が上げていくか、割り当てを工夫しいるところである。生徒の活動発表・校外学習・生産物の販売活動をとおして

地域から愛される学校を目指して積極的にやっている。

- ・「生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制の構築」では、研修等全職員で進めながら、一回でも起こってはならないことなのでコンプライアンス意識を醸成していく。

○質疑：特になし。承認

(2) 令和7年度教育課程（副校長）

- ・本校は総合学科で様々系列がある。2年次になり5つの系列に分かれる。更に3年次で、人文系列は文I・文II、自然系系列は理系・看護系と進路目標に応じた形での履修を行っている。また、様々なニーズに対応した学校設定科目というものを用意している。
- ・総合的な探究の時間として、2年次、3年次で外部の方と連携し、総合学科の発表会に向けて探究活動を行っている。これに付随し、文科省事業からDX（デジタル人材育成）ハイスクール事業の募集があり、昨年度本校が採択され一千万円文科省から事業費がおり、ハイスペックパソコンやドローン数機等他購入している。探究活動等で興味関心を持っている生徒が使うことができるよう、DX用の教室を設けて活用している。令和7年度も500万円枠で継続採択となっている。
- ・令和7年度の教育課程は、昨年度県に申請して承認を得ている。

○質疑：特になし。承認

(3) 特色化・魅力化ビジョンについて（副校長）

- ・アドミッションポリシーは、中学生に対しこのような生徒に入ってほしいということを示している。
- ・カリキュラムポリシーは、学校でこのような教育活動を行うことを示している。
- ・グラデュエーションポリシーは、このような人を育成しますということを示している。
- ・毎年見直しをかけながら、より良いものにしていきたい。

(4) 教職員働き方改革アクションについて（校長）

- ・満足度は高いとは言えない現状である。すごく忙しい。朝会は月金だけ全体朝会を行い、火水木は各年次朝会としている。連絡事項はTeams等で共有できるようにしている。職員会議はペーパーレスで進め、少しでも時間を要しないように取り組みをしている。工夫しつつ必要な議論は、勤務時間を超えないように授業短縮時程等を工夫しながら議論できるような体制を整えるように動いている。

8 令和7年度年間計画について（議長：会長）

- ・総務課、教務課、生徒指導課、進路指導課より重点目標等の説明

9 質疑応答及び意見交換

委員A：部活動未加入者は何故加入しないのか。大学入試と推薦入試の学力が乖離してしまう危険性はないのか。私立大では学力重視になってきているのはAOでハッタリを書いたような生徒が使いものにならないことなのか。何故、私大で逆転しているのか。

生徒指導課：家庭で「部活動をしないで勉強しなさい。」と言われたり、部活動に入ったが人間関係をうまく築けなくて、途中で部活動をやめて未所属のままという生徒いる。

委員A：部活動に入らないで総合型選抜で進学するという生徒が増えているのか。

生徒指導課：そうではないが、部活動に入らないで目標をもって一生懸命やっている生徒もいるし、そういうことを見いだせない生徒もいる。

進路指導課：総探を頑張っている生徒の学力が低くなるとの相関関係はないが、両方やるというのは難しい。近年学校推薦、総合型の入学者の中退率が年々上昇していることは全国的に大学で話題になっている。関東の大学入試説明会で、指定校推薦で入学してきた学生の退学率がかなり高いことから、次年度から指定校を見直したいという話をされた。このような状況から首都圏の私大は、少し学力を重視するようになってきた。受験者数が中堅以上の私大の場合は、学力重視の増加傾向にある。それよ

り下の大学は受験者数が減少傾向にあるということもあり、早期に学生を確保することを重点的に実施してくると思われる。人気私大は、早期に確保しなくても学力試験で選抜できる学力重視にシフトするという動きになっている。

委員A：文科省は座学で習ったものを活用できるような能力にするためという前提があるのに、そのような悲劇が起こっているのは解せない。文科省が言っていることと現実がどんどん乖離していっている。入学できるのであれば、探究の活動成果に下駄をはかせて入学させるのではなく、本当の力になるような探究でなければ駄目である。

進路指導課：探究の成果で入るというよりも、探究で足りなかった分の学問を学ぶために大学に行くというのが一番スタンダードなパターンだと思う。高校の探究活動で一定のことはやるが、足りない分が分かると生徒たちの進路がもっと明確になってくると思う。

校長：合格のための手段としては、追い詰められればあると思うが、そっちに寄りすぎると、という話である。人間を鍛え、生きて働く力を育てて卒業するとしたら、その根っこになるものに対応する探究活動を目指していくというスタンスだと思っている。

委員B：指定校推薦で入学した学生の中退率が多くなっているということだが、昨年度娘が3年生で、進路指導で関根先生から指定校推薦等で合格した生徒は、次の後輩のことも考えて頑張ってほしいという話があった。自分の進路目標として入ったかも知れないが、困難があっても退くのではなく、次の後輩のことも考えてほしいと思う。

○委員から提言

委員C：校長先生から説明のあった学校経営計画だが、県のフォーマットによるということで重点目標のア～カまであるが、重点目標というのは県からの指定なのか。それとも学校で決めたものか。

校長：学校のものである。重点目標のところで具体的な取り組み方針を示している。

委員C：確かなキャリアの構築というところで「確かな」という言葉を付けているので、校長先生が意識された学校経営をされているのだと思った。引き続きこのような観点の充実ということで推進していただければと考える。

委員D：初めてのこのような資料を見せていただき、ぜひとも計画通りに事業が進むことを祈っている。興味深く聞いたのが、DX事業で次の機会に具体的にどういうことをされているのかお話を聞ければと思う。

委員A：このような資料をつくるまでかなり時間がかかっているのだと頭が下がる思いだ。学校は大変だとマスコミは言うが、実態はあまり世に知られていない。最近いろいろな方と話す度に「大変」の中身が具体的に実感として伝わっていないと思う。もっと発信していただき具体的に大変なことや困りごとをもっと言っていいと思った。このような機会に話していただければ何かできることは何かを考えたいと思うのでこれからよろしくお願ひします。

委員E：先生方のご苦労に感謝申し上げたい。近年、働き方改革ということで銀行さんでも昼休み休んでいる状況である。昼休み時間は電話に出ないなどの工夫をしてみてはどうか。

生徒のヘルメットの着用については、学校で義務化するのか、生徒会会則で義務化するのかいろいろなやり方があると思うが自主性を重んじて、仮説を立ててなぜヘルメットをかぶらないのか検証してアンケートを取らせるなどして進めていくのも一つの進め方かと思う。

委員B：社会福祉協議会では年に3回、学校の長期休業に合わせて一人親世帯の食料品の渡す事業を行っている。春休みにその仕分け作業があるが、二高さんから30数名のボランティアに来ていただき助かったところである。その際、いろいろなアンケートを取らせていただいたが、「部活動をやっている生徒は春休みが参加しやすい」、「冬休みであれば参加できる」など実際の声を直接確認することが

できた。今年度もこのような事業を企画しているので、また声掛けさせていただきたい。生徒さんのボランティア体験であったり、社会にはそういった支援もあることを知る機会にもなる。娘がサッカーチームのマネージャーをしていたが、土日の試合に先生方が引率されており、ありがたいと思う反面申し訳ないと思っていた。先生方の健康や家庭のこともあるので、うまく調整していただき健康に留意されて今年1年間よろしくお願ひしたい。

10 閉会（副校長）

- ・第2回学校運営協議会は、12月17日（水）開催予定。この日は総合学科発表会が午前中にあり、午後に運営業議会を予定している。午前中の発表会をご覧いただければありがたい。第3回は2月に予定している。